

サーチライト With Pastor Jon 創世記 7 章・8 章 パート 3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

筆記 by Rumi

それは、苦難が忍耐を生み出し (ローマ 5:3)

嵐、困難、トラブル、苦難の日々。その苦難さえも喜んでいる。

「なぜ？ 箱舟の中にいて、神の声も聞こえず、これからどうなるかも分からないのに、どうして喜んでいるの？」

パウロは言いました。「いい時だけ喜ぶのではなく、困難の時にも喜び祝うんだ。」

なぜか？ それは、苦難が忍耐を生み出すことを知っているから。

想像してみてください。

箱舟の中でゆらゆら揺られながら、「主よ、どこですか？ 私を忘れてしまったのですか？」と思いながらも、自分の力ではどうすることもできません。

ただ、忍耐を学ぶ以外には。

苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し (ローマ 5:3 - 4)

やっと諦め、嘆くのをやめ、遂に神に委ねて、「主よ、降参です。」

「もう、どうしようもありません。」

「ナニがどうなっているのか、あなたが何をしているのか、私には全然分かりません。」とあなたが言う時、その時神は、「よしよし、やっと分かってきたな。」

それは、「苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出す」のように、今、品性を得ようとしているから。

遂に諦めて神に委ねる時、神がどう働くのかを見ることができるから。

すごい話ですが。裏にある保養センター。

私たちは郡の公聴会で、新しい礼拝堂について議論していました。

郡の計画事業課の人たちは、私たちの計画に好意的ではなく、状況は良くなかった。

私たちのプレゼン直前に、アシュランド（オレゴン州）の仏教団体が、地元で 12 床の保養センターを建設する計画について議論しましたが、郡は高圧的に、それを未決のリストに上げました。

すると彼らの弁護士が、「では、アップルゲート・チャーチ（*ジョン牧師の教会）はどうなんですか？ 彼らは礼拝堂の裏に 120 床の保養センターを持っていますよ。

それに、彼らの都市計画の地区制は、我々仏教団体と同じですよ。」

そしたら郡の担当者たちは顔を見合わせて、「何だって!?!」「その保養センターは稼働しているぞ。」

私たちはそこで続きを聞いていたのですが、担当者たちは気づいていなかったようです。

決定の日、これらの担当者たちは現れず、来たのは郡に雇われた職員が一人だけ。

彼以外には誰も来ず、決定を下すのは彼に任されていました。

それは、仏教団体の人たちには信じられない事でした。

この職員は起立して、「3つの部会に連絡しましたが、誰も来ませんでした。規則では、誰も来ない場合、私の意見で決まります。」

そして、「承認します。」（会衆からアーメン！）

仏教団体も周りを見渡し、驚きの瞬間でした。

私たちもその場において、「わお！すごい！想像もしていなかった！」

「主よ、私はこれまで郡の職員や議論の内容などにあれこれ不平不満を言ってきたけど、たった今、あなたがいつも働いておられることを見ました。担当者たちの目をくらまし、ここに来れなくして、全てがうまくいくようにして下さい。」

主よ、あなたは素晴らしい！」

個人的にも教会としても、このようなみわざをどれだけ見てきたことでしょう。

思ったように進まず、イライラし、不安になって、最後に、「おお！主が成されたことを見て！」「主のみわざだ！」

苦難は忍耐を生み、そして、あなたが遂に落ち着いた時、私がやっと諦めた時、そこから品性が生み出されます。

そうです。神がどのように働かれるかが見えてくるのです。

次へ行きましょう。

苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す（ローマ 5:3 - 4）

聖書の“希望”の定義は「必ず来る良いことへの確かな期待」

「良いことが起きたらいいのに」とか「うまくいくように！」というのは希望ではありません。

良いことが起こるという確信。良いことが必ず起こる。

それは、もうそこまで来ていて、私の方に向かっていているというのが希望。

最後のフレーズを見てみましょう。

苦難は忍耐を生み出し、遂に手放す。

忍耐が練られた品性を生み出すのは、神のみわざを見るから。

それから、練られた品性が希望を生み出す。

「そうさ。絶対に良くなる！」今までの体験によって学び始めるのです。

練られた品性が希望を生み出し、そして希望が・・・次をよく見て下さい。

この希望は失望に終わることがありません。（ローマ 5:5）

長年、主と共に歩んで来て言えることはこれです。

その歩みの中での恥ずべき言葉、思い、行動、恥ずかしい態度、行い、習慣、考え、それらは全て、直接、失望と繋がっている。

ある時点まで来て、「ああ、これはダメだ。」「もう、続けても意味がない。」「こんなの、ムダ!」「これ以上頑張ってもムダだというのは状況を見れば分かる。」「時間のムダだ。」

そういった言動、思いが、最終的には自分を辱めることとなります。

うまくいくと思ってやったことが、今となっては恥。

それは失望から来ていて、何であれ、そうしたことを後になって恥じるのは、常に失望と関係しているのです。

今分かってきたのは、「主は正しい!」「苦難は必要だ。苦難を通して私は遂に諦め、主に委ねることを学ぶから。それが、苦難が必要であることの理由なんだ。」

もう、自分で船の舵取りをしようとは思わない。

もう、命令しない。前みたいに自分が船長だなんて思わない。

「主よ、この苦難で忍耐を学びました。あなたを信頼する以外ありません。

もう自分では何もできません。」

そして、忍耐することで主がどう働かれるのかを知り、その体験が希望を与えてくれるのです。

「そうだよ! 今まで主がされたことを見ろよ! 次も必ず助けて下さる!」

この希望は失望に終わることがありません。(ローマ 5:5)

今回は、ノアが明らかに希望を失って、恥ずかしい行動に出るところを学びますが、今夜、神は「あなたたちのことを忘れてはいないよ。」と言っています。

いいですか。

人生いつでも、どんな時でも、恥を見ないようにする唯一の方法は『信仰』を持つこと。

信仰とは。

自分がやっていることが分かるなら、それは信仰ではない。

どこへ向かっているのか分かるなら、それは信仰ではない。

なぜ、それが起こったのか分かるなら、それは信仰ではない。

どうなっているのかはっきり分かるなら、それは信仰ではない。

ヨブは 38 の章にわたって、疑問に思い、分からず、友達と議論しました。

膿が流れ出る悪性の腫物が全身にでき、灰の中に座って、土器のかけらを取って体を引っ掻きながら。

ヨブの話、知っているでしょ?

子供たちは死に、財産は取られ、家畜小屋は焼け落ち、体は病に侵され、全てを失いましたね。妻以外は。

悪魔は妻を残しておきました。

だって、この妻が言うんです。「ヨブ、もう諦めなさい。希望なんてないから。」

「もうダメよ。」「あなた、神を呪って自殺するのが一番よ!」

良い奥さんですよ。 **「神を呪って死になさい。」(ヨブ記 2:9)**

失望。

ヨブは最初の頃は何が起っているのか分からず、そんな中でも神を礼拝していました。

しかし、ネガティブな自分の内なる声が聞こえて来て、そうして話は展開し、遂に 38,39,40 章、神が現れて語ります。

「ヨブ…」

「知識もなしに言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。」(ヨブ記 38:2)

「わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。」(ヨブ記 38:4)

「哲学的な議論をして、自分が何を言ってるのか、本当に分かっているのか？」

「ヨブ、わたしが神だ。あなたではない。」

そして、本質的なことを尋ねました。「わたしを信じるか？」

ヨブは偉大な人物でしたが、それでも揺らぐこともあれば、疑問を持ったこともあるでしょう。

しかし彼は、絶対に神を呪わず、絶対に神から離れませんでした。

もしこのことが分かるなら、これを見ているなら、救いという箱舟の中において問題はなく、私たちは天国に向かって漕いでいるのです。

今すぐ全てを理解することが大事なのではなく、よく聞いて下さい。

大事なことは永遠を信じるかどうかです。

フットボール選手にとってはデイリー・ダブル、海軍所属の人にとってはブートキャンプ、野球ファンにとってはスプリングキャンプ。

人生は、ずっと永遠に存在する天国への、単なる準備訓練期間です。

そして、天国の共通語は信仰。

天国の言語、永遠の言語は信仰。

「主よ、遂に実感できました。ようやく理解できました。」

この世での旅路は永遠への準備期間だと。

あなたに仕え、用いられるには信仰が不可欠だと。

永遠の御国を本当に味わうのに最高、最善なものは信仰です。」

私たちは信仰を学んでいます、それは、箱舟の中でこれから何が起こるのか分からない時にのみ学ぶことができます。

私も、信仰や希望を学ぶ簡単な方法があればいいのと思いますよ。でも、ない。

天国へ行く簡単な方法があればなあと思います。でも、ない。

「ジョン、じゃあ、それまでどうすればいいの？」

聖書を見て下さい。ノアがしたことを見てみましょう。

ノアは 190 日間、箱舟の中にいました。ある意味、闇の中に。

でも、**神は、ノアと、彼とともに箱舟の中にいた、すべての獣およびすべての家畜を覚えておられた。(創世記 8:1)**

皆さんに分かっていて欲しいのは、この文は「おお！ノア！忘れて…いやいや、ちゃんと覚えていたよ。ごめん、ごめん!!」と、そういうことではありません。

ここで神がボンと膝を打って、「あっ、そうだ！ノア！」と言ったのではなく、神は、いつもいつもノアを心に覚えていたということです。

ノアは闇の中、箱舟で揺られていましたが、神はいつも覚えていた。

ノアが不安になっても、心が揺れ動いても、神はいつも心に留めていた。

これが、あなたにも私にも助けとなる今夜のキーポイントです。

箱舟の中でユラユラ揺られ、もしかしたら絶望感に襲われている時も、神はノアを覚えていました。

どうして私がこれを理解でき、全てが再びはっきりしたのか？

イエスが願ったことを私たちが行う時に、神は私を心に覚えているんだということを、間違いなく思い出すから。

「わたしを覚えて、これを行いなさい。」(ルカ 22:19)

「食卓に着く時、わたしが誰であるのか思い出さなさい。」

だから、私たちはここで聖餐式をするのです。

毎朝、毎日、幾晩も継続して。

(*アップルゲートフェローシップは毎日のモーニング・ワーシップでも聖餐式を行う)

聖餐に与る時、そこに座って、或いはテーブルの前でひざまずいて、イエスの裂かれた体と流された血を手にして言います。

「ああ主よ、あなたが私にして下さったことを、たとえ何が起きているか私が理解できなくても、あなたがどれほど私を愛しておられるかということを中心に覚えます。

主よ、あなたは私のために、十字架でご自分のいのちを犠牲にして下さり、私の生涯を通して、大声ではっきりと語って下さいます。『あなたを愛している』と。

だから、今は依然としてあなたの声が聞こえないままであっても、それは、永遠の天国の言葉、共通語すなわち信仰を学ぶために、あなたが許されていることなのです。

私はあなたを信じています。」

皆さん、イエスが**「わたしを覚えて、これを行いなさい。」**と言ったことを行うのがどれほど大切か、言葉では言い表せません。

私たちは、それをここで絶えず行うことができるのですから、しっかりとやりましょう。

きちんと主の食卓に着くのです。

「何日くらい？」それは、私には言えません。あなたと神との関係だから。

でも、あなたが浮き沈みしながら不安の中で、「主よ！どこにいるのですか!？」と思う時は聖餐の食卓に着きなさい。

その時イエスは、「わたしを覚えなさい。そうすれば、わたしがいつもあなたを心に留めていることが分かるでしょう。」

とても大切なことです。

主はノアを心に覚えていました。

神は地の上に風を吹き渡らせた。すると水は引き始めた。(創世記 8:1)

『風』はヘブル語で『ルアク』 別の意味は『霊』 面白い。

神が地の上に風を吹き渡らせると水が引き始めました。

世は水に覆われ、風、つまり霊がその上を動く。

聞き覚えがありませんか？

創世記 1 章 2 節。最初の創造。

神の霊がその水の面を動いていた。(創世記 1:2)

ここで見えてきましたね。

聖書では『水』は、いつも『みことば』に関連しています。

水の上を霊が動くと言事明らかになる。

再び視界の中に見えてくるのです。

「主よ、聖餐の食卓であなただを覚え、あなたがみことばの上を動かれるのを見ました。」

大水の源と天の水門が閉ざされ、天からの大雨がとどめられた。

水は、しだいに地の上から引いて行った。

水は百五十日の終わりに減り始めた。(創世記 8:2-3)

全部で 190 日。遂に水が引き始めました。

箱舟は、第七の月の十七日にアララテの山地にとどまった。(創世記 8:4)

好きなみことばです。

私たちを乗せ、天に向かって進んでいる救いの箱舟は山の上に留まりました。

第 7 の月の 17 日、何が起こりましたか？

イエス・キリストの復活です。

第 7 の月の 14 日は？

過越しの祭りですね。

そして、“第 7 の月”は“1 年の最初の月”になりました。

それは出エジプト記 12 章に記されています。

「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。」

(出エジプト記 12:2)

出エジプトの時、最初の月の 14 日、つまり第 7 の月の 14 日に子羊が屠られました。

(出エジプト記 12:6)

その同じ日、過越しの祭りで、小羊キリストはエルサレムで殺されたのです。

そして、14 日から 3 日後の 17 日、イエスは死からよみがえりました。

それで、私たちは復活の山の上に、その事実の上に留まっています。

箱舟は山の上に現れて留まりました。

いつ？ 復活の日に。復活の日曜日に。

その日に、箱舟はアララテ山の上に留まりました。

一方、水は第十の月まで減り続け、第十の月の一日に、山々の頂が現れた。

四十日の終わりに、ノアは自分の造った箱舟の窓を開き、鳥を放った。

すると鳥は、水が地の上から乾くまで、出たり戻ったりした。

またノアは、水が地の面から引いたかどうかを見ようと、鳩を彼のもとから放った。

鳩は、その足を休める場所を見つけられなかったので、箱舟の彼のもとに帰って来た。

水が全地の面にあったからである。

彼は手を伸ばして鳩を捕らえ、自分がいる箱舟に入れた。(創世記 8:5-9)

ここは、ものすごく大切な箇所です。

鳥は悪の象徴で、あちこちうろつき、破壊して食い荒らす。

鳩は聖霊の象徴です。

ノアは鳩に自分の手を伸ばしました。

鳩が手に止まることを期待して待つのではなく、自分が手を伸ばして中に入れました。

信仰によって手を伸ばす。

それは、私たちが生きているこの終わりの時代、聖霊によって力を得るということです。

つづく

主は答えられた。

「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。

しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。

それが彼女から取り上げられることはありません。」(ルカ 10:41-42)